

**製品名: PEG10 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87083**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:100-1:200, FC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 80 kDa; Observed MW: 100, 55 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PEG10
別名	EDR; HB-1; Mar2; RTL2; MEF3L; Mart2; RGAG3; SIRH1
遺伝子 ID	23089
SwissProt ID	Q86TG7
免疫原	ヒト PEG10 の合成ペプチド

**背景**

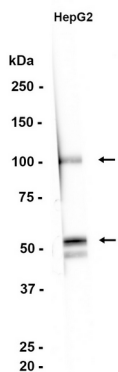
これは父系発現のインプリント遺伝子であり、Ty3/Gypsy ファミリーのレトロトランスポゾンに由来すると考えられています。RF1

と RF2 という 2 つの重複するオープンリーディングフレームを持ち、2 つのタンパク質を発現します。RF1 由来の短い gag 様タンパク質 (CCHC 型ジンクフィンガードメインを含む) と、-1 翻訳フレームシフト (-1 FS) によって RF1/RF2 由来の長い gag/pol 様融合タンパク質 (追加のアスパラギン酸プロテアーゼモチーフを含む) です。-1 FS は、RNA ウイルスや原核生物および真核生物のトランスポゾンで観察されていますが、この遺伝子は真核生物細胞遺伝子における -1 FS の最初の例です。この遺伝子は哺乳類種間で高度に保存されており、-1 FS に必要なヘプタヌクレオチド (GGGAAAC) とシュードノットエレメントを保持しています。この遺伝子は成体および胎児組織 (特に胎盤) で発現し、細胞増殖、分化、アポトーシスに関与することが報告されています。この遺伝子の過剰発現は、肝細胞癌や B 細胞リンパ性白血病など、いくつかの悪性腫瘍と関連付けられています。この遺伝子を欠損したノックアウトマウスは、胎盤異常を伴う早期胎児致死を示し、この遺伝子が胎児発生において重要であることを示唆しています。この遺伝子については、選択的スプライシングによる転写バリエーションに起因する追加のアイソフォームや、上流の非 AUG (CUG) 開始コドンの使用が報告されています。[RefSeq 提供、2014 年 10 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



PEG10 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HepG2 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。